

浮世絵と巡る東海道

保土ヶ谷宿は、慶長6年(1601年)東海道に宿駅の制度が定められた際に、幕府公認の宿場として誕生した。保土ヶ谷区を通る旧東海道は、芝生村違分(現在の西区との区境)から、境木地蔵付近(現在の戸塚区との区境)までの約5kmであった。

その内、宿場としてのまちなみを整えていた「宿内」は、江戸方見附(現在の天王町)から上方見附(現在の岩崎カド付近)までの約2kmである。宿内には本陣を始め旅籠や茶屋、商店が立ち並び宿場町として大いに賑わっていた。そのような保土ヶ谷宿の風景を描いた浮世絵が多く残っている。葛飾北斎や歌川広重等によって描かれた浮世絵と共に旧東海道を歩き、遠く江戸時代に思いを馳せるのも楽しい。

1 金沢横丁道標四基

天明3(1783)年
天和2(1682)年
文化11(1814)年
弘化2(1845)年



市登録地域有形民俗文化財[平成元(1989)年12月]
この地は、旧東海道と金沢・浦賀往還「かなさわかまくら道」の交差点で金沢への出入口にあたるため通称「金沢横丁」と呼ばれた。金沢・浦賀往還には、弘明寺、円海山、杉田、富岡などの信仰や観光の地が枝道にあるため、道標として四基が建立され現在も残っている。

2 旧保土ヶ谷本陣跡(軽部家)

(主屋・通用門・蔵)

主屋：大正14(1925)年建築/木造平屋建/洋館付き住宅
門：不明/木造平屋建/冠木門
蔵：大正12(1923)年建築/鉄筋コンクリート造2階建/土蔵風倉庫



旧東海道保土ヶ谷宿において大名の宿泊、休憩場所である保土ヶ谷本陣を代々運営してきた軽部家の本陣跡に建つ建物。主屋・門・蔵が残る。

3 旅籠(はたご)本金子屋跡(金子家)

江戸末期〜明治初期建築
・推定/木造2階建
旅籠(旅館)建築



保土ヶ谷宿の旅籠として残る建物。本金子屋は保土ヶ谷宿の平旅籠として明治18年まで営業していたが、明治20年の国鉄東海道線の開通に伴い、宿場の機能が徐々に失われてゆき廃業したと伝えられる。

4 復元した一里塚と松並木・上方見附モニュメント

平成17(2005)年復元
一里塚/松並木/
上方見附



平成17年12月、横浜市の事業である第1回「ヨコハマ市民まち普請事業」に選ばれ、平成19年2月、市民の手で一里塚と松並木が復元された。

5 元町の街なみ

江戸初期(慶安元年(1648年)頃)に幕府の命によって保土ヶ谷宿が現在の保土ヶ谷町方面に整備された際、元町の住民が保土ヶ谷町へ移されたと伝えられる。昭和30年代までは茅葺の民家が立ち並び江戸時代さながらの懐かしい街なみが残っていた。



6 大仙寺(本堂・山門)

元禄14年(1701年)推定
木造平屋建/寺院建築



高野山真言宗の寺院。かつては旧東海道(現在の国道1号)まで参道が通じていたが、明治19年に参道を国鉄が横切る形で開通し現在は踏切が設置されている。

7 旧権太坂



旧東海道の道のりは、日本橋から保土ヶ谷宿までは平坦であったが、元町から境木までの急坂は旅人にとって最初の難所であった。一番坂と二番坂があり、かつては道の両側に松並木が広がり昭和の初めごろまではその景観を残していたと云う。また、現在の花見台から元町橋に至る坂道は、江戸時代以前の古東海道の「神奈川坂」であったという説が伝えられる。

8 境木武相国境



武蔵国と相模国の国境(武相国境)と旧東海道が交わる地にかつて道標杭があったとされることから「境木」の地名が名付けられたとされる。権太坂を登り切った所の景色の良いこの地には茶屋があり、かつての旅人は名物の牡丹餅を食べながら疲れを癒したと伝えられる。

近代の発展を支えた帷子川沿いの工場跡地・商店街を巡る

保土ヶ谷の工業の歴史は、現在の天王町に富士瓦斯紡績(絹糸製糸場)を創業したことに始まる。この地域は帷子川の水運や工業用水が非常に利用しやすく、大規模な区画整理事業によって広く平坦な工場用地が用意され、その後、大日本麦酒(後の日本硝子)、古河電池、程谷曹達、東洋電機製造等の工場が進出し、帷子川に沿って次々と工業地帯化していった。物流動線として1917年(大正6年)相模鉄道(相鉄線)が開業。さらに、工場勤めの人々の住宅需要は周辺の桜が丘、月見台、峰岡町などの住宅地の発展を生んだ。

9 東洋電機製造跡、日本金属工業跡

東洋電機製造：大正7(1918)年〜不詳
日本金属工業：昭和7(1932)年〜不詳

東洋電機製造
大正7(1918)年設立。当時、機械類はほとんど英・独・米からの輸入品で、第一次世界大戦後は輸入物資がまもなく、鉄道車両用電気機器の国産化の使命を帯びて設立され、電車のモーターを国産化した企業である。製品の車両を移動させる引込線が保土ヶ谷駅に直結して今も残されている。



東洋電機製造

日本金属工業
昭和7(1932)年、ステンレス鋼の製造を目的として設立。日本初のステンレスの製造を手がけた。工場跡地の高層住宅団地の入口の植え込みに「ステンレス鋼発祥の地」の記念碑がある。

10 旧帷子橋跡

市登録地域史跡名勝天然記念物
[平成10(2008)年11月]



広重など保土ヶ谷宿を描く多くの浮世絵に描かれている帷子橋。昭和39年の帷子川の改修以前に架かっていた帷子橋が現在の天王町駅前公園にモニュメントとして復元されている。

11 橘樹神社

創建は鎌倉時代1186年と伝えられ、京都の八坂神社の分霊。明治時代までは「牛頭天王社」と称していたが、大正時代に武蔵国橘樹郡の地名を取って橘樹神社と改められた。現在の本殿は戦後の建築。本殿の左手にある青面金剛庚申塔(しょうもんこんごうしんとう)は1699年のもので横浜市内最古と云われている。



12 天王町商店街



「天王町」の町名は、橘樹神社の旧名「牛頭天王社」から名付けられたと云われている。戦前は富士瓦斯紡績の表門からまっすぐ伸びる通りに沿った商業地として工場と共に発展したことから「紡績前通り」又は「表門通り」と呼ばれていた。家具店や映画館などが立ち並び、地域住民や工場労働者の生活必需品を揃える保土ヶ谷を代表する商店街として大いに賑わった。

13 水道道跡

明治20(1887)年



明治20(1887)年に敷設された近代水道の遺構、水道道(すいどうみち)と呼ばれる。津久井の水源から西谷一星川―天王町―藤棚―西戸部を通り43キロに渡り関内の横浜居留地まで給水され、日本初の近代水道の第一歩を創った。この通りは戦前「保土ヶ谷線」などの映画館も多く建ち並び大変賑わいをを見せていた。

14 富士瓦斯紡績跡

明治36(1903)年〜
昭和20(1945)年

明治36(1903)年に設立され、1920年(大正9年)頃に最盛期を迎え、従業員6,000名を超える世界最大級の生産量を誇る製糸工場として稼働した。昭和20(1945)年の空襲で操業停止し、戦後は米軍に接収、自家発電を行い、周辺の工場に余剰電力を供給していた。工場の表門周辺は現在はイオン天王町店の店舗入口となっている。

富士瓦斯紡績で働く女工などの日常の生活必需品をすべて揃えていたのが、表門から延びる現在の天王町商店街(通称「シルクロード天王町」)の起源といわれている。天王町商店街のメインストリートは、現在でも「表門通り」と呼ばれ地域の歴史を偲ばせている。

15 程谷曹達(保土ヶ谷化学)

大正5(1916)年〜
昭和48(1973)年

大正5(1916)年、程谷曹達(株)創設。昭和9(1934)年、傍系の東洋曹達と合併し、総合化学メーカーとして昭和14(1939)年に保土ヶ谷化学工業と改称した。昭和48(1973)年には工場を郡山に移転させた。



16 大日本麦酒(日本硝子)跡

明治40(1907)年〜
昭和60(1985)年



元は東京麦酒という会社が明治28(1895)年に保土ヶ谷の神戸(ごうど)に進出し、明治40(1907)年にビール会社の大手である大日本麦酒に買収され、ビールと清涼飲料水を製造したことに始まる。工場敷地南側から月見台へ続く急坂は、この工場にちなんで「ビール坂」の愛称で呼ばれている。大正5(1916)年に隣地に日本硝子工業保土ヶ谷工場が設立され、両者は合併、分離を繰り返すが、戦後は「日本硝子」として専ら瓶の製造に特化した。日本硝子は昭和60(1985)年に閉鎖、その跡地は、横浜ビジネスパーク、保土ヶ谷スポーツセンターなどとして活用されている。

17 古河電池跡

昭和12(1937)年〜
昭和61(1986)年

古河電気工業(株)が事業拡大にあたり、電池製作部門に関連に進出するべく、保土ヶ谷に工場を建てたのが昭和12年であった。昭和25年に蓄電池部門が分離独立して「古河電池(株)」となる。昭和61年にはいわず、今市市に工場移転し、跡地は高層マンション、いなげや、星川中央公園として活用されている。



27 北向地蔵

享保2(1717)年

市登録地域有形民俗文化財
[平成元(1989)年12月]

修繕の時に地蔵の向きを変えても、いつの間にか北向きに戻っているのが「北向地蔵」と呼ばれるようになったそうである。ここは「かなさわかまくら道」の分岐点であり、地蔵の角柱には「是より左の方かなさわ道」「是より右の方くろう寺道」と刻まれ、金沢方面と弘明寺方面への道案内も兼ねていた。



28 御所台の井戸

不詳



市登録地域史跡名勝天然記念物
[平成3(1991)年11月]
「かなさわかまくら道」その途中の急な坂道(いわな坂)沿いのひっそりとした一角が政子の井戸とも呼ばれる「御所台(ごしよだい)の井戸」である。政子とは、頼朝の妻で、頼朝の死後に実質的に将軍の仕事を行い「尼将軍」と呼ばれた北条政子のこと。この井戸の水を政子が化粧に使ったという言い伝えがあり、この一帯が政子の所領する土地だったのではないかという説もある。

丘の洋館・カトリック教会を巡る

1920年代(大正から昭和初期)、和風住宅の玄関脇に小さな洋館(洋間)がついた建物「洋館付き住宅」である。大正から昭和にかけて和洋折衷のライフスタイルが普及し、一般の住宅にも西洋館の影響を受けた建物が全国各地に多く建てられるようになった。洋館付き住宅の魅力は、屋根の形、外壁の仕上、窓の意匠などそれぞれの建物が個性的な工夫を凝らし、モダンな洋間と簡素な和室が一体となって、住まいとしての魅力をつくりだしている点である。

18 杉浦邸

昭和4(1929)〜5(1930)年頃建築
木造平屋建/洋館付き住宅



平屋建、中廊下式間取で、外観は全洋館様式。かつてのドイツ下見板張の外壁と玄関横の応接室窓の鍍金はクリーム色に塗装されていた。当初の屋根は赤い人造スレート葺(近年改修済)であった。モダンな洋風意匠の建物で、樹木に囲まれた昭和初期の月見台の住宅地景観を偲わせる住宅である。

19 井澤邸

昭和11(1936)年建築/木造2階建
洋館付き住宅

昭和60年までは内科・小児科の町医者「井澤医院」として営業。洋館部分を待合室として使用しており、地域に親しまれてきた建物。洋館を囲んで後年に増築2階建てとなり、最も目立つ敷地角にランドマークとして洋館部分を見せている。



20 保土ヶ谷カトリック教会

昭和14(1939)年建築
木造平屋建/教会建築



美しい建物である。チェコ出身の建築家J.J.スワワーによる設計と言われている。

21 「横浜の洋館付き住宅」の展示USC(イベント開催中のみ)

横浜に建つ洋館付き住宅約100棟を今は失われた建物も含め写真で紹介する。また、洋館付き住宅が生まれた歴史などの解説と、実際に使われている瓦や天然スレートなどの屋根材なども展示。

29 檜崎邸

(元米穀商大岡米店)
昭和6(1931)年建築
木造2階建/町屋

町屋(商家)としては、旧東海道保土ヶ谷宿沿道に唯一残る建物。米屋として昭和15年頃まで営業していた。伝統的商家造りである。前面道路は檜崎邸側は江戸時代の旧東海道の時代の道路境界線がほぼ現在も変わっていないことが知られており、旧宿場通りの歴史的景観を偲わせる歴史的建物として貴重である。



30 帷子会館

大正期建築/木造平屋建/
近代洋風

当初は消防署の消防車を収納していた建物。現在は町内会館として利用されている。扉や窓は後に改修されたものだが、大正期の建物として旧東海道沿いに残る稀有な洋風建物である。歴史的建造物の良い保存活用例といえる。



22 村井邸

大正14(1925)年建築
木造平屋建/洋館付き住宅



建築主は外国航路の船長を務めており、横浜港から近い保土ヶ谷の岩崎町に関東大震災後の大正14年にこの家を構えたと伝えられる。間取りは典型的な「中廊下式住宅」であり、外観は建物全体を南京下見板張りで覆い洋風の作りとしている。当洋館部分の屋根は切妻の上に小さな寄棟が載る「半切妻」屋根で、軒部分には珍しいハンマービーム風の意匠があらわれている。柱の一部には松材の四方柱(しほうまさ)が使われており、床板にも米松の柃目材(ピーラー材)が使われているなど、材料にも当時としては先進で独特な工夫がなされている。村井邸は、保土ヶ谷区に残る洋館付き住宅としては最も古いものの一つで、外観や内部の造りも秀逸であることに加え、材料も非常に良質である。また、典型的な中廊下型の洋館付き住宅として造形の規範となっており、建築史的価値が高い。

23 三輪邸

昭和2(1931)年建築
木造2階建/洋館付き住宅



外壁は全て下見板張りの和風造りだが、玄関の奥に洋間の応接室、その左手に広い洋間があり、和館部分は2間続きの座敷を配し、秀逸な書院造で創建時の形をよく留めている。

24 中島邸(旧喜久の家旅館)

大正13(1924)年建築/
木造平屋建/
洋館付き住宅



昭和28年頃増改築して平成17年頃まで旅館業を営んでいた。洋間は3帖、元は玄関路送りより直接入り、洋間の続き部屋とは段差が付いた土間を設えたユニークな洋館であった。

マナーを守って見学しましょう



保土ヶ谷区マスコット
ほとびー

31 西谷浄水場創設時の歴史的建造物

西谷浄水場内歴史的建造物
川島町田配水計量器室上屋
レンガ造平屋/旧水道施設



西谷浄水場の場内及び近隣には、大正4(1915)年に浄水場が創設された当時から残る歴史的建造物が現存(西谷浄水場内6棟、近隣1棟)している。これらの施設は、現在その役割を終えたが、当初はバルブ類や計測機器を保護する目的で建設された。レンガ造建屋の歴史的価値等が評価され、平成9(1997)年には、国の有形文化財に登録されている。